



一般社団法人 日本臨床試験学会

主催事務局

法人国立精神・神経医療研究センター
臨床研究・教育研修部門 情報管理・解析部

運営事務局

サブ・ドットコム コンベンション部
東京都荒川区西尾久7-12-16
0111 / FAX: 03-3893-6611
@soubun.org
(メールでいただけますと幸いです。)


sub.config.atlas.jp/ja/event/jsctr16

第16回学術集会総会 in 横浜 特集

大会長よりメッセージ

この度は、日本臨床試験学会第16回学術集会総会にご参加くださり、誠にありがとうございました。現在は、5月15日（木）までのオンデマンド配信も完了し、無事に全てのプログラムを終了できております。

お陰様で、2,000名を超える皆様に参加登録をいただき、また各セッションにご登壇いただきました非会員の先生方を加えますと2,100名を超える皆様にご参加いただきました。それもひとえに、現在の臨床試験における環境変化やその課題、今後の方向性に関わる、多岐に渡る大変魅力的なセッションをご企画いただきました先生方、そして日々の業務の中で、臨床試験に真摯に取り組む、課題認識を持つ中でご参加いただきました皆様のお蔭でございます。心より感謝申し上げます。

また、AMEDの-sponsoredシンポジウムや、「共催」となります12のランチョンセミナー、68スペースとなります企業・アカデミアのブース出展と、多くの皆様のご支援・ご協力によって開催できた学術集会総会でした。ご関係の皆様にも改めまして心より感謝申し上げます。一方、当日の運営では、映写、配信、一部の受付でお待たせするなど大変ご迷惑をおかけしました。大会長より心よりお詫び申し上げます。

次回の日本臨床試験学会第17回学術集会総会は、2026年2月19日（木）～21日（土）に神戸国際会議場にて開催を予定しております。第16回学術集会総会における皆様方との数々の意義深い議論や温かい交流を、また次回神戸でもご体験いただけますよう、ぜひご参加のほどよろしくお願い申し上げます。



日本臨床試験学会第16回学術集会総会
大会長 小居 秀紀

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院
臨床研究・教育研修部門 情報管理・解析部 部長

コンテンツ

第16回学術集会総会 in 大阪 特集

大会長メッセージ	... 1
多くのセッションでつながる絆	... 2
いろんな会場特集	... 3
優秀演題と最優秀演題	... 9
JSCTR Awards	... 10
次期大会長メッセージ	... 12
学会の様子（写真）	... 13

今号は、第16回学術集会総会の特集として、様々なシンポジウム、セッションの様子を掲載しました。今大会は同時に開催されるセッション数も多く、全てのシンポジウムの掲載には至りませんでした。多くのプログラム委員、オーガナイザーの先生方のご協力のもと発刊にいたることができました。

パシフィコ横浜で開催された今大会には、事前参加申し込み1,952名、当日申し込み79名、招聘演者76名の計2,107名の参加者数（速報値）となりました。

各セッションの内容や写真に加え、前大会から始まったJSCTR Awardと受賞者からのコメント・メッセージ、次期大会大会長の真田昌爾氏からもメッセージをいただいております。当時の熱気を思い出しながらかみください。

広報委員会 編集担当者





一般社団法人 日本臨床試験学会

多くのセッションでつながる絆

今年も学生さんたちが頑張りました！学生交流セッション

➤➤➤ 支持療法・緩和医療の臨床試験が抱える問題点にどう立ち向かうか

支持療法・緩和医療領域の臨床試験が抱える障壁について、学生さんたちが本学会のエキスパートの先生とともに半年間かけて調べ、議論してきた内容を発表し、会場にいらした先生方とも議論をしました。初めてのスライド作成、学会会場でのスライド登録、発表＆質疑応答など、初めての経験ばかりの中、素晴らしい発表をしていただきました。



基調講演2

臨床研究・治験推進に係る今後の方向性 <<<

2日目の朝からは、基調講演が行われました。国立病院機構名誉理事長である楠岡英雄先生から、臨床研究や治験の変遷、これからの臨床研究・治験が目指していく方向性をお話いただきました。今現在行っている業務から、手続きの簡素化、共通のICFへの移行など、とても興味深い内容でした。





一般社団法人 日本臨床試験学会

the previous day&Day1

2025.02.27～28

チャットセッション1

【モニタリング2.0検討会と日本臨床試験学会との共催企画】
どんな職種・役割の方も大歓迎！協働のためにCRCとCRAについて理解する座談会

本セッションでは、モニタリング 2.0 検討会ワーキンググループ 13 において、「1922 名のアンケート結果を基に作成した学習ツール」を用いてクイズ形式でグループワークを行い、その後ディスカッションをすることで相互理解を深める機会として「協働のためにCRCとCRAについて理解する座談会」を開催しました。業務の改善のみならず、未来の医療と社会への貢献に繋がる協働関係の構築を目指した活動です。



チャットセッション4

集まれ、モニタリング担当者の森！語ろう、検定・認定について！！



本セッションでは19名（アカデミア14名、企業5名）が5グループに分かれ、勉強の方法やキャリアパスにおける検定・認定の位置づけ等についてアットホームな雰囲気の下で熱い議論を交わしました。



シンポジウム1

次世代医療基盤法改正とRWD利活用における将来の展望

本セッションでは、次世代医療基盤法改正の内容、作成事業者のサポート体制、利用事業者の認定と今後の利用などについてのディスカッションを行いました。

開会式直後の第1会場で開催されました。内閣府の宮田先生はじめ、次世代医療基盤法として話題性の高いテーマのご講演が続き、朝早いセッションであったにもかかわらず、非常に多くの皆様にご参加いただきました。シンポジウムが無事終了して、座長・演者の先生方も一様に安堵されたご様子です。

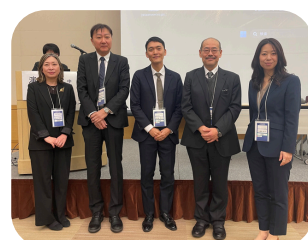


いろいろな会場特集

シンポジウム4

臨床試験専門職のための論文投稿のススメ！
論文執筆に挑戦するための取り組みと広がる未来

臨床試験専門職の論文投稿が少ない現状を改善するため、本セッションでは論文投稿方法の解説、経験談・メリットを共有しました。また、投稿の工夫や学会の取り組み予定を紹介し、アンケート結果を基に議論を行いました。





一般社団法人 日本臨床試験学会

いろいろな 会場

特集

シンポジウム5 患者始点の全員参加型 臨床試験と治療開発 ～がん領域の取り組み から学ぶ～

本セッションでは、患者始点での診療・治療開発を目指したがん領域での先駆的取り組みを4人の演者から発表いただきました。

それぞれの取り組みが治療開発の促進と試験参加者支援に繋がることが確認できました。



シンポジウム6 臨床現場における臨床研究専門職以外の専門家の取り組み ～看護師、薬剤師、医療情報部、メディカルソーシャルワーカー編～



一般臨床の仕組みが支える臨床試験。本セッションでは、医療現場の多職種の臨床試験実施への関わりを共有。病院スタッフの知られざる努力に会場は熱気に包まれ、立ち見が出るほどの盛況でした！

シンポジウム9 神経領域の臨床試験における多職種 連携

本セッションでは、神経領域の臨床試験について医師、CRC、統計家、プロマネ、モニター、心理師から講演いただき、総合討論も行いました。疾患領域の学会でもこれだけの職種が揃うことはなく、本学会ならではの企画でした。

シンポジウム11 がん臨床研究専門職「Oncology Clinical Research Expert」の魅力を共有しよう ～がん領域の認定制度を通じて、専門職のあり 方を考えてみませんか～

本セッションでは、がんCRP認定取得を題材に、取得を目指す～取得に至るまで、取得後の活躍、そして取得による自身の成長等について共有し、専門職としてあるべき姿を検討しました。

参加者から、「現場の発表に元気をもらった」、「認定制度を理解し目指しなくなった」など前向きな感想をいただきました。

今後も活躍の場を提供します！

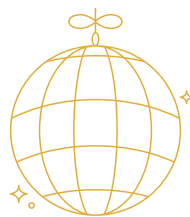




一般社団法人 日本臨床試験学会

Day 2

2025.03.01

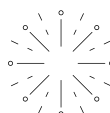


いろんな 会場

特集

特別シンポジウム2

創薬力の向上にむけて我々が出来ることは何か



今回、基調講演として

「創薬力の向上により
国民に最新の医薬品を

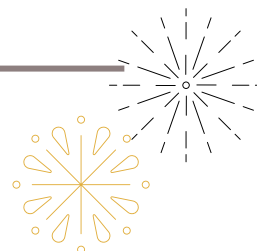
迅速に届けるための構想会議」の中間とりまとめについての説明や、
新規モダリティ医薬品等の創薬開発を行っている立場や国際水準の
臨床試験体制構築を促す立場、そしてアカデミアやスタートアップの
シーズ創出や育成に関わるVCの各々の立場における取組を紹介し、
中間とりまとめを踏まえた成果目標を達成するために、我々自身が
取り組んでいかなければならないことについて整理、議論を行いました。

2日目の朝からにも関わらず多くの聴衆にご参加いただき、ホットな
議論が行われました。

AMED スポンサーシップシンポジウム

性差を考慮した研究開発の推進

～健康・医療分野における研究開発において、性差の視点を組み込む～



健康・医療分野の研究開発において、研究の質向上のため
「性」を変数として考慮する重要性、性差を考慮した研究開発
の実施にあたり参考となる海外の資金配分機関や著名な論文誌
の取組、さらに、性差に基づいた知的創造や技術革新（ジェン
ダードイノベーション）の概念などについて紹介しました。



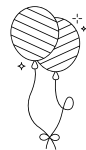
AMEDの関連HPも是非ご覧下さい。

(クリックすると外部ページに移動します)



一般社団法人 日本臨床試験学会

シンポジウム14

RWDにおける研究倫理の課題と展望
ー臨中ネットの取組みを通じてー

リアルワールドデータの利活用がわが国でも急速に進みつつあります。本セッションでは、臨床研究中核病院間で診療情報を研究に活用する取組みとして2018年より開始された「臨中ネット」の活動を通じて、医療機関から部局や専門領域を超えてリアルワールドデータを提供する際のリアルな倫理的課題について、6名の演者から発表が行われました。



座談会

ボードレス座談会！ みんなで考える「研究支援者、倫理委員会事務局のあり方」

臨床研究には、研究者、研究支援者、委員会事務局、CRC、モニターなど、多様なステークホルダーが関わります。本セッションでは、約200名の多職種の方が参加し、リアルタイムアンケートツール『imakiku』で研究支援に関する悩みや意見を共有しました。さまざまな悩みや意見に対して、相互に共感コメントや「いいね」を送ったり、参加者から寄せられた事前アンケートの質問に登壇者が回答したりと会場は大変盛り上がりしました。終了後のアンケートの満足度も高く、「学びが深まる！」と再開催を望む声が多数寄せられました。ご参加いただきました皆さま、大変ありがとうございました。





一般社団法人 日本臨床試験学会

シンポジウム15 がんの治療開発最前線

本セッションは、日本臨床腫瘍学会共催セッションでした。
がん早期薬剤開発の最前線を議論し、最新モダリティや日本の課題を共有し、臨床試験専門職に必要な知識と理解を深めました！



シンポジウム16 超急性期臨床試験の新時代：同意プロセスの革新と社会との共創に向けて

いろいろな 会場 特集

シンポジウム18 Road to Clinical Quality Specialist－臨床試験を取り巻く環境の変化を迎えて－

本セッションは、本学会では初めてのモニタリング専門職に焦点を当てた企画でしたが、満席で立見が出るなど盛況で本職への関心の高さを実感致しました。

会場に足を運んでいただき心よりお礼申し上げます。



シンポジウム21 アカデミアで実用化研究を進めていくのに必要な人材、仕組みについて

本セッションでは、シーズの質だけでは実用化に不十分で、アカデミア、企業全ての関係者が基礎研究から臨床開発を同じ目線で俯瞰し、熱意、相互理解、組織内連携、若手への経験継承の重要性を共有しました。



シンポジウム22 臨床試験における多様性確保を目指したVR・MRの利活用による新たなコミュニケーションデザイン

本セッションでは、仮想空間を利用したメタバースやVR/MRなどXRの技術を用いた、コミュニケーション・関係性の構築や、臨床試験への技術の導入を目的として、各種取り組みを報告しました。





一般社団法人 日本臨床試験学会

いろんな 会場

特集

チャットングセッション10

Quality by Designを正しく理解しよう

-運用しづらいプロトコルの謎から迫る！-



Quality by Design(QbD)の体験として3つの異なる模擬試験計画で「血圧」収集方法を議論し、グループ毎に目的による収集プロセスの差異を学習しました。実施後のアンケート結果から、QbDの必要性が実感できたことが判明しています。



第13回エキスパートクラブ

学会会期終了後に第13回エキスパートクラブを開催しました。

今回は学術集会総会の会期後、遅い時間の開催となりましたが71名の方にご参加いただきました。

運営は長尾典明氏（JT）を中心に、GCPエキスパート取得者及びがん臨床研究専門職認定取得者の有志が担当しました。



今回のエキスパートクラブでは、株式会社リニカル 育薬事業部/日本臨床試験学会 理事 吉田 浩輔先生より「ヘルシンキ宣言改訂および ICH E6 (R3) について」、厚生労働省 医薬局 医薬品審査管理課 審査調整官 松下 俊介先生より「治験エコシステムについて」と題してご講演いただきました。近年の臨床試験に関する動向や治験の更なる効率化の状況などを知ることができる貴重な時間となりました。ご講演ありがとうございました。

また、参加者の満足度は90%を超え、有意義な会となりました。

エキスパートクラブ終了後、エキスパートクラブに参加したGCPエキスパート取得者及びがん臨床研究専門職認定取得者と今学術集会総会のプログラム委員・実行委員の希望者、計48名で懇親会を開催しました。会期後の立食形式という足腰にくる懇親会形式ではありましたが、エキスパート同士やプログラム委員・実行委員の方々との交流を横浜の夜景とともに楽しみました。





一般社団法人 日本臨床試験学会

優秀演題と最優秀演題

6つの演題が表彰されました！

受賞された先生方、その共同演者の先生方、おめでとうございます！

優秀演題

鈴木 昌 先生

(東京歯科大学 市川総合病院 救急科/Refined-IC 研究班/慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート水素ガス治療開発センター)

演題名：EFIC活用臨床試験に対する一般市民の認識と影響要因の検討

演者：鈴木 昌、福田 真弓、REFINED-IC 研究班

山崎 純子 先生

(神戸大学医学部附属病院 臨床研究推進センター)

演題名：逸脱報告書からリスクを特定する～RBAに基づく品質管理体制の強化～

演者：山崎 純子、北村 直子、榎本 博雄、真田 昌爾

吉本 拓矢 先生

(中外製薬株式会社 バイオメトリクス部)

演題名：がん第I相試験におけるSingle patient acceleration を許容したRule-based/Model-assisted/Model-basedデザインの動作特性を評価するツールの開発

演者：吉本 拓矢、澤本 涼、中川 雄貴、生井 伴幸

堀松 高博 先生

(京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構)

演題名：日本の研究力低下の現状分析と京大病院iACTにおける研究力強化の取り組み

演者：堀松 高博、和田 由美、池本 翔子、岡崎 麻紀子、波多野 悦朗



院 先端医療研究開発機構
現状分析とiACTにおける研究力強化の取



最優秀演題

宮路 天平 先生

(東京大学 先端科学技術研究センター 当事者研究分野)

演題名：臨床研究に患者報告アウトカムを組み込む際の倫理的考慮事項：PRO倫理ガイドラインの開発

演者：宮路 天平、Rivera Samantha、Olalekan Aiyegbusi、Calvert Melanie

菊池 瑞穂 先生

(国立研究開発法人国立がん研究センター東病院)

演題名：臨床研究レイサマリーの作成と想定読者の検討：国立がん研究センター東病院における取り組み

演者：菊池 瑞穂、小村 悠、湯浅 三保子、三木 いずみ、名坂 明子、片岡 裕美子、櫻井 公恵、桜井 なおみ、眞島 喜幸、天野 慎介、中村 能章、吉野 孝之

*右上の集合写真には、菊池先生の代わりに授賞式にご出席された小村悠先生が写っております



一般社団法人 日本臨床試験学会



昨年に引き続き、JSCTR Awardが発表されました。今年度は新たに次世代のリーダーを表彰する「Tomorrow's Leader賞」が新設され、神戸大学医学部附属病院臨床研究推進センターの寛 康正氏が表彰されました。Best of GCPエキスパートは愛知医科大学病院 臨床研究支援センター/薬剤部の堀田 和男氏、帝國製薬株式会社 臨床開発部の藤岡 慶壮氏が選ばれました。特別賞には、学会創設時から長くご貢献いただいた中嶋（新美）三由紀氏が選出されました。各受賞者から受賞コメント、特別賞の中嶋氏からは学会へのメッセージという形でコメントをいただきました。



Best of GCPエキスパート

堀田 和男 先生 愛知医科大学病院 臨床研究支援センター/薬剤部



このたび、『Best of GCP エキスパート』という栄えある賞を賜り、誠に光栄に存じます。

2010年、薬剤部長からの突然の依頼により、病棟専任薬剤師から専従CRCへと転身いたしました。研究に必要な知識を改めて学ぶため、2011年にはGCPパスポートを取得。その後、学術総会で「エキスパートクラブ」と呼ばれる秘密結社の存在を知り、2015年にGCPエキスパートを取得いたしました。同クラブでは、当時の代表理事であられた大橋靖雄先生の講義を拝聴する機会に恵まれ、新たな視野を得ることができました。また、多くの先生方との出会いにも恵まれ、現在では認定制度委員会、将来構想委員会、モニタリング小委員会にて活動の機会を頂いております。本学会の存在が、私の臨床研究におけるキャリアを形成してくれたと、深く感謝しております。

今回の受賞を励みとして、今後もエキスパート取得者として、学会ならびに臨床研究のさらなる発展に寄与していきたいと存じます。このたびは、誠にありがとうございました。

藤岡 慶壮 先生 帝國製薬株式会社 臨床開発部



この度はBest of GCP エキスパートという栄誉ある賞を頂戴し、誠に光栄に思います。

私は2014年に当学会に入会、GCPパスポート及びGCPエキスパートを取得し、2018年から認定制度委員会に携わっております。また2020年からGCPエキスパート小集団活動8に参加しGCPエキスパート取得者が共に学び共に成長できる場作りを検討するとともに、2024年にエキスパート有志の集まり（OLIVE）を立ち上げ、学会員を対象とした情報交換会の開催に取り組んでおります。

本受賞はこれら活動を評価いただいたものと考えており、活動に際してご指導くださる樽野弘之先生、吉田浩輔先生、リードしてくださる長尾典明先生、一緒に活動する認定制度委員会、小集団活動8及びOLIVEメンバーの皆さん、支援してくれる家族に改めて感謝申し上げます。

これからも学会員の皆さんと共に学び、共に成長し、学会のミッションである臨床試験・臨床研究の推進と質向上のために尽力していきたいと考えております。

引き続きご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



一般社団法人 日本臨床試験学会



JSCTR Award



Tomorrow's Leader 賞

筧 康正 先生 神戸大学医学部附属病院臨床研究推進センター



この度は日本臨床試験学会の記念すべき第1回Tomorrow's Leader賞の受賞を心から嬉しく思っています。右も左も分からない臨床家がこの臨床試験の世界に飛び出して、まもなく9年目を迎えようとしています。この間、本当に日本中の多くの専門家の先生方に沢山御助言頂いたおかげで今もこの仕事を続けられていますし神戸大学病院も中核病院を取得することができました。あらためてお世話になった方に本賞の受賞を持って、これまでのご指導の御礼の気持ちに変えられればと思っています。

自分の専門領域をしっかりと続けながら、支援職としても日本の臨床試験の向上につながる仕事をする。このロールモデルになるのが、君の仕事だよと着任した日に前のセンター長である永井洋士先生に言われたことを胸に、今も日々その意味を模索しながらステディマネージャーとPIを続けています。

本賞の初の受賞者として、米欧に追い付き追い越せる日本の臨床試験の未来を信じて少しでも精進を重ねる所存であります。今後とも皆様の変わらぬご指導を宜しくお願い致します。

特別賞

中嶋（新美）三由紀 先生



JSCTRをコンセプトにしたメッセージであるから、記憶だけの裏話を書かねばなるまい、と思った。思いが込められた学会の名称。

「学会」を名乗ることは誰にでもできるが、設立はなかなか大変だ。日本学術会議協力学術研究団体と認められるには、さらに一定基準を満たす必要がある。

2008年、私たちは米国SoCRAから日本支部を脱退（独立）させるか否か、侃侃諤諤。その解決策のひとつが、日本で臨床研究の専門職の組織を作ることだった。

そもそもSoCRA日本支部設立に先鞭をつけたのは、初代JSCTR代表理事の故 大橋靖雄先生であったのだ。

それならば、ということで、「協会」という職能団体ではなく、米国SCTをモデルとし、研究者が研究発表、情報・意見交換する学術団体「学会・研究会」をめざした。

2009年、一般社団法人として「日本臨床試験学会」の前身となる「臨床試験研究会」を立ち上げた。研究会として発足後、学会となった「日本臨床腫瘍学会」というモデルもあった。

発起人73人は全員が必ずしも医学系研究者ではない。医師も統計家も薬理学者もいるし、薬剤師も看護師も、企業の社長も社員もいる。この構成こそが日本の臨床研究を支える「人」であり、他の医学系学会にはない、臨床試験研究会の特徴だ。

折しも、日本では「治験」だけを特別視する風潮が高まって、治験はお金になるが、臨床研究や疫学研究はお金がなく、研究者のボランティア的活動に依存していた。しかし、それを打破しようという気持ちを持った人たちが、臨床試験研究会の設立に賛同した。

試験はTrials、研究はResearch、その両方を名前に組み入れたい。

日本語名、臨床研究研究会？ なんだかおかしくないか？

臨床研究学会？ まずは研究会からでしょう。

臨床研究・試験研究会？ とってつけたような感じ、日本語って難しい。

日本臨床試験学会の英語名「Japan Society of Clinical Trials and Research」には、こんな設立時の思いが込められている。



一般社団法人 日本臨床試験学会

次期大会は神戸で開催！次期大会長メッセージ

大会長のバトンは次期学術大会大会長である真田昌爾氏に引き継がれました。
閉会式ではテーマに込められた想いなどをお話されました。
改めて、その熱い想いをメッセージとしていただきました。



この度、来年2月19日（木）～21日

（土）の会期で『臨床試験が紡ぐ人々のしあわせ—対極の共存、協働による調和—』をテーマに第17回日本臨床試験学会学術集会総会を神戸にて開催させて頂く事となりました。

未曾有のコロナ禍を経て、近年世界中で繰り広げられる紛争や思想・経済対立、コミュニケーション分断や力による支配の急拡大と共に、多様化する人々の意見は先鋭化し、混迷を深めるように見えます。臨床開発の現場でも、ICTや医療Dxの急激な進展、AIによるデバイス革命や臨床試験改革、研究参加者の試験参画や分散型臨床試験によるパラダイムシフト等、多様かつ常時進化を続ける課題への対応が急速に求められています。この様に我々を取り巻く環境が不透明さや混迷を増す中、全ての対応を模索しつつ私達が本当に目指すべき将来の姿、私達一人ひとりが求めようとする真の「しあわせ」とは一体どこにどんな形で存在するか、見通しが極めて難しくなっています。

一方、人間が連綿と繰り返す歴史の営みから、様々な場面である種の究極像としての二極分化、二律背反の「対極」の存

在が浮上してきます。例えば男性と女性、父性と母性、個別化と画一化、人文と科学、相対主義と絶対主義、ボトムアップとトップダウン等も然り、加えて例えば臨床開発の世界でも、リモートデジタルコミュニケーションの革命的発達とアナログコミュニケーションの再評価、急速なグローバル化・統一化の一方で飛躍的に進化発展する個別化、業務の高度な多様化・専門化と共に強く求められる普遍的認識・共通知識の重要性など枚挙に暇がありません。しかし時世の先端は歴史上もついにどちらにも収斂せず、あたかもこれら「対極」の間を循環しているようにも見えます。

そこで、私たち一人ひとりが、形は異なっても時世を超えた共通の目的である「しあわせ」の真の方向性を見極めるためには、「対極」の対峙する姿を俯瞰的に捉え、その間に生まれる新しい概念やエネルギーの正しい姿や位置付けを「認める」必要があります。そして他人と異なる自身の思想に深い洞察を加えてしっかりと立脚しつつ、お互いの相違を認め合い『対峙しながら共存し』、オープンマインドな思考と広い視野で議論し『協働』し、「I 'm OK, and You' re

OK”のあり方を求めることで、根源的な対極の単なる癒合・統合を凌駕した『調和』により『1+1が3にも4にもそれ以上にもなる』新しい発想や力が生まれるのではないかと考えます。

この強い想いを本大会のテーマに込め、アカデミア、行政、企業など組織や資格、職種の垣根を越えて多様な背景を有する皆様方の『協働』（仕合わせ）により、画期的・萌芽的なアイデアがたくさん生まれ、より多くの皆様方に、臨床試験をより深く、時には枠に捉われずより幅広く思考と議論を重ね、交流・調和して新しいパワーが生まれる『しあわせ』（幸せ）を感じて頂ける、実り多い会となるよう心から願いつつ、神戸の地で皆様方のご参加を心より歓迎し、お待ちしております。



第17回日本臨床試験学会学術集会総会
in 神戸
会長 真田 昌爾

神戸大学医学部附属病院
臨床研究推進センター長／教授
神戸大学大学院医学研究科
橋渡し科学分野長

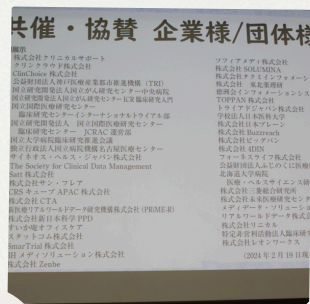
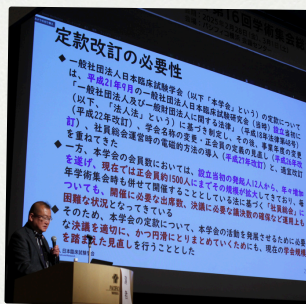


一般社団法人 日本臨床試験学会





一般社団法人 日本臨床試験学会



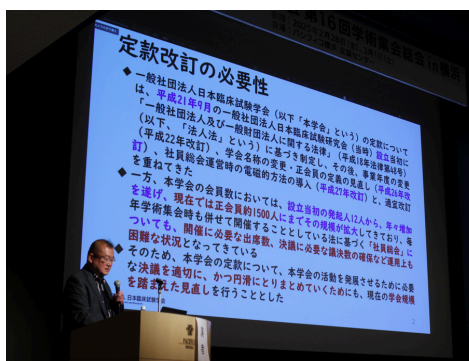


一般社団法人 日本臨床試験学会

定款改訂します

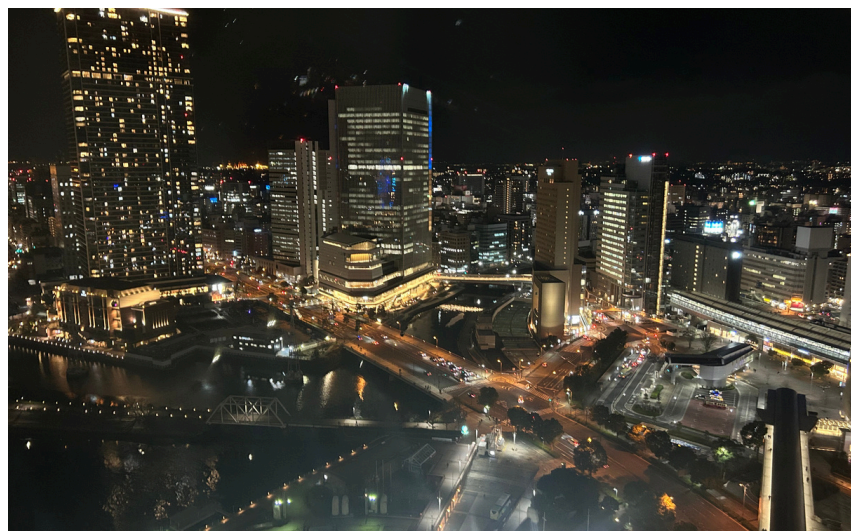


紙面では大きく取り上げていませんが、社員総会では定款改訂について、時間をかけてその必要性・詳細などが説明されました。臨時号でもポイントをお知らせした通り、①役員任期の導入、②代議員制の導入、③学会運営のDx化を掲げ、大きな変化を迎えることになります。



👏学会運営スタッフに拍手を！👏

今学術集会総会を支えた実行委員やプログラム委員、バイトの学生さん、その関係者のお姿を写真に収めておりませんでしたので、写真が掲載できておりませんが、学会運営を支えてくださったみなさま、ありがとうございました👏



編集後記

第2号のニューレター、お楽しみいただきましたでしょうか。皆様のご協力の基、学術総会の様子をお届けすることができました。感謝申し上げます。写真撮影に走り、人知れず転倒し膝が痛かったことが思い出されます。次号に備え足腰を鍛え、転倒しないように気を付けたいです！（担当者1号）

ニューレターで学会特集をお届けするのは今回で二度目です。視覚的にも楽しんでいただけるように、堅苦しすぎないデザインを心がけています！大盛況のうちに終了した第16回学術集会総会の様子が少しでも多くの皆さまに伝われば嬉しいです。（担当者2号）

いろんな会場特集の記事原稿・写真は、プログラム委員・オーガナイザーの先生方に多大なるご協力をいただきましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。次年度はもう少し体力をつけて会場を渡り歩けるようになりたいと思います！！（担当者3号）



一般社団法人 日本臨床試験学会

一般社団法人 日本臨床試験学会

代表理事 山口 拓洋

〒162-0844

東京都新宿区市谷八幡町14

市ヶ谷中央ビル3F

株式会社ティーケーピー内

TEL：03-5206-4005（平日 9:00～17:00）

FAX：03-5206-4002

一般社団法人 日本臨床試験学会 Newsletter for JSCTR Members

作成 広報委員会

今一 留実 大崎 理海 上條 のぞみ 川口 崇 小林 典子

近藤 智子 鈴木 啓介 中村 やよい 和田 妙子

発行日 2025年6月1日

発行 一般社団法人 日本臨床試験学会